「アジア・太平洋における協同組合」
ロビー・トゥルス（ICA・ROAP前事務局長）

訳　菅野正純

1997年のアジア金融危機は、恐ろしい状況を生み出した（一例として1997年から1998年にかけてタイの生活水準は13．6％下降した）。これに対してICA・ROAPは、協同組合の戦略を再検討し、この結果、アジアの協同組合は、十分な積立金を形成し、外部主導の協同組合から組合員主導の協同組合へ移行することができた。

「新世代」協同組合が、フィリピン（労働者、住宅、保健）、マレーシア（学校）、インド（共有サービス）等で生まれた。

アメリカでは、ITバブルが崩壊し、エンロンやワールドコムが破綻して「企業詐欺」の実態が明らかとなった。

こうした経済状況は、協同組合の進歩を遅らせた反面、協同組合の価値と組合員制の優位性に新たな意味を与えた。

アジア太平洋の協同組合の課題と趨勢を、次のようにまとめることができる。

①協同組合事業とインターネットの爆発（「集団的IQ」の形成）
②市民社会の興隆（「勝者がすべてを取る」グローバル化の大勢に対して、公正と民主主義を推進する）
③男女平等と公正
④マイクロファイナンス（貧しい人々に焦点を当てた、小口の融資と保険サービス）
⑤若者の自立支援（世界、とりわけアジアの多数を占める若者に対する雇用の創出）
⑥協同組合への法的な権限の付与
⑦協同組合資本の形成（組合員からのより多くの資本調達。協同組合の理念原則を損なわない、革新的な資本調達の方法の開発）
⑧協同組合的なリーダーシップ（ヒエラルキー的・権威主義的なリーダーシップに代わる、変革的・参加的なリーダーシップの確立）

ICA・ROAPのロビー前事務局長（左）とILO協同組合局のフセイン氏